

平成30年度第2回市民参加推進・評価会議 会議要旨

1 日時	平成30年7月5日(木) 午後3時00分～4時50分
2 場所	大和市役所 委員会室
3 出席者	委員6人(田邊 誠 委員(会長)、青木 俊介 委員、岩本 翠 委員、 小室 三枝子 委員、徳留 佳之 委員、中丸 ちづ子 委員) 事務局4人(政策部長他3人)
4 傍聴人数	0人
5 議題	(1) 諮問 (2) 議事 ①平成29年度市民参加手続の実施状況について ②その他
6 議事要旨	・大木市長から「平成29年度市民参加手続の実施状況に対する総合評価について」の諮問が行われた。 ・会議資料に基づき、事務局から説明を行った。 ・事務局からの説明の後、質疑応答及び意見交換を行った。
7 会議資料	・資料1 : 平成29年度 市民参加手続の実施状況 ・資料2 : 平成29年度 審議会等委員の公募状況 ・参考資料: 意見公募手続・意向調査の実施実態まとめ

【主な質疑等】

- 委員： 都市再生整備計画の事後評価についての意見公募では意見がなかったのは国が指定する様式がコメントしづらいなどが要因と考えられるのか。
- 事務局： 国が指定する事後評価シートを市が作成し、それに対する意見を募り国に報告するもので、コメントしづらいかもしれない。
- 委員： 事業対象期間にはシリウスの開館も含むのであれば意見があってもよいのではないか。
- 事務局： 事後評価ということもあり、関心を集められなかったと考えられる。また大和駅周辺の道路整備などが中心となる。
- 委員： 意見が出にくい内容である。
- 会長： 意見公募を行うことは国で決めているのか。
- 事務局： 国は交付金を交付して、事業の検証を自治体に求めている。市民にも意見を聞くことが手続として求められていると考える。
- 委員： 本件には審議会もある。そちらの意見は国に伝えられているのか。
- 事務局： 審議会を経て評価シートが作成されている。意見が寄せられなかったパブリックコメントだけでなく、複数の市民参加手続を経て作成されている。
- 委員： プロムナード歩行者数や文化施設来場者数などが従前値、目標値が記載されており、数値が上昇しており納得できる資料であることは分かる。結果が

悪ければ意見が出たとも考えられる。意見がなかったのは結果が良かったからではないか。

事務局： 委員の言うように想定された効果が上がらなかった場合のほうが意見として、原因が問われ議論になることもあるのではないかと考える。

委員： 書類を見て意見を出すというのも難しいと思う。

委員： 過去と比較すると、各所管課が市民参加について努力していることがわかる。公募の仕方が工夫されていると思う。

会長： 成果として意見数がかんりの数になっており、評価できる部分である。

事務局： 実施予定時の答申を受け、事務局ではパブリックコメント等の実施にあたって様々な依頼をしている。資料を閲覧できる施設やA4サイズ1枚の概略資料を作成することを指示しており、それらの取り組みにより改善されてきていると考えている。

会長： 学校教育基本計画の策定は、意見交換会等1回の実施で参加者が86人と非常に多いと感じる。集まりにくい内容とも思えるがどうか。

事務局： 講演を行った後にグループになって意見を出しあう手法を取っている。教育フォーラムと名称付けて講演とグループディスカッションを行う旨を広報している。

委員： 関心を引く年代などもあると思う。教育関係では若い方が多いのではないか。子どもが学校に通っている世代の関心が大きいと思う。

委員： 講演者や開催日時も関係があると思う。平日の昼間ではなかなか集まらないこともある。

委員： 教育やスポーツなどは多くの方にとって興味のあるものだと思う。興味があれば足を運ぶので人も集まる。

事務局： 教育フォーラムの講演者は和光大学の教授で、開催日は10月14日の土曜日、午後1時30分からであった。教育研究所の主催であり、開催前に本市の教育に関するアンケートを実施し、結果報告を意見交換会の中で行っている。

委員： 単なる意見交換とはしない企画がよかったのだと思う。日時の設定やテーマに関連して、さらに情報が得られるのではないかという期待を抱くことで意見の集まりも違ってくるのではないか。意見交換会という呼び名を使わず、教育フォーラムという名称にし、関心を喚起する活動をしながらか市民参加手続をしたのがよかったのだと思う。

事務局： 市民参加手続上、意見交換会という形式ではあるが定義としては行政と市民あるいは市民同士の意見交換の場があれば会の名称は意見交換会でなくともよい。住民説明会の中で行政との意見交換の機会を持つ例として、今回では住居表示の実施で行われた意見交換会の例がある。

委員： 今後の意見交換会についても企画や方法を考える必要があると思う。

委員： 市民参加手続は行政側からすると、しなければいけないものという発想になりがちだが、積極的にそのテーマに関する啓発活動を行うと違ってくるの

ではないか。

事務局： 市としてまずは計画等を市民に理解していただいたうえで、意見聴取を行うので啓発や喚起は必要なものと捉えている。教育フォーラムを好事例として市内に展開していく必要もあると考える。

委員： 実施状況がよかったので市民からの反応もよかったのだと思う。教育フォーラムは何回目の開催か。

事務局： 手元に資料がないので調べて次回報告したい。

委員： まねるのではなく、新しい仕掛けを考えていくことも必要である。教育フォーラムはどこで行われたのか。

事務局： 平成29年度はシリウス内の生涯学習センターで開催している。非常に多くの人が集まる場所なので、それを目的に来られた方でなくてもたまたまシリウスに来ていて催事を初めて知って関心があるので参加されるといったケースもあると聞いている。人の集まる場所にはそのような効果もあると考えている。

委員： 審議会等委員の公募実施状況の中で大和市まごころ地域福祉センターの指定管理者選定委員会、大和市子育て支援施設の指定管理者選定委員会、大和市市営住宅の指定管理者選定委員会は応募人数0人であったが、団体推薦等により委員を選出する手当てがとられておりよいと思う。その他のほとんどの審議会等については、公募人数よりも応募人数が上回っており、よい結果である。

委員： 町界町名審議会も公募人数に対して応募がないようであるが、どのように対応しているのか。委員8名とあるが6名で運営したのか、10名のところ8名で運営したのか。

事務局： 本審議会は自治会からの推薦など、現在の委員のほとんどが市民で構成されている。運営人数については調べて次回報告したい。

会長： 公募した2名は欠員のままだが定数以内なので運営したということか。

事務局： そのとおりである。

委員： 大和市子ども読書活動推進会議の公募人数が若干名なのはなぜか。他の審議会等は公募人数が明記されている。

事務局： 条例で設置して報酬を支払う会議などは、予算の関係から定員を条例で定めているが、条例などに基つかず無報酬で務めていただくものなどは定数の定めがなく実施しているものである。

委員： 審議会のテーマによって関心も異なるので単純に比較はできないが、前年度の資料と比較すると、前年度のほうが倍率は高い。

事務局： 前年度の総合計画審議会は、ちょうど次期総合計画策定に係る時期での委員公募であったため関心が高かったのだと思う。

委員： 同一の委員公募で比較すると多少の増減はあるがほぼ同数で推移している。

会長： なかなか人が集まらない中で、フォーラムを活用した取り組みでは、意見交換会等に人も集まっているようである。

- 委員： 開催の手法ではないかと思う。いろいろな場面で人を動かす仕掛けがあれば人が集まるのではないか。
- 委員： グループワークも意見が出てくるので十分な意見交換になる。
- 会長： 意見公募や意見交換会など市民参加の手法があるが、教育フォーラムは、それとは別の催しの中に組み込んだものと捉えるが、このようなグループディスカッションの場に出されたものを意見として集約しているのか。
- 事務局： 次期学校教育基本計画の策定にあたり、9つのグループに分かれて未来を生きる子どもたちにはどのような力が必要かというテーマでディスカッションしてもらい、各グループで出てきた多くのキーワードを要素として汲み取って次期計画の策定をしている。
- 委員： 意見交換会の実施について予算は確保されているのか。
- 事務局： それぞれの事業には予算がついているが、意見交換会等の実施に充てられる予算がなければ、市の会議室などを利用して実施していると思う。
- 委員： 成功事例を参考に手法を広げるため、単なる意見交換会以上のものをやろうとすれば予算も必要になる。そのための条件整備、環境整備も考えなければならぬ。
- 委員： 今日の意見等は各審議会に知らされるのか。
- 事務局： 今後の話になるが、答申の中で好事例として教育フォーラムの話を取り上げることはできる。
- 委員： 同じことをするのではなく、各審議会によってプログラムに特徴あるものを組み込むことによって人を呼べる内容にすることができればよいと思う。
- 委員： 各審議会を所管する課の予算に応じたタイアップができればよいのではないか。
- 会長： 予算的には講師謝礼が一番高額なものになるだろう。またシリウスなど会場を借りるための費用も必要になるのか。
- 事務局： シリウスでは市が無償で利用できる一定の枠があるが、それを超える部分は有償になる。
- 委員： 講師謝礼とシリウスの会場費がかかれば、それだけで相応の費用になってしまう。内容を深く掘り下げられるような方を交通費負担程度で探せないか。
- 委員： 著名な方を講師に呼ばなくてよいと思う。市の職員が説明するのではなく、その方面の興味のある人たちを集められるような講師を考えればよい。また、イベントなどは人を集めるのに苦勞するが、逆の発想で人の集まる場所で開催するという考えもある。意見公募も同じように考えられるのではないか。意見を待つのではなくて取りに行くという発想もできるのではないか。
- 委員： 長く続けられているものは市民の周知も広がり、時期が来るのを楽しみに待ってけているものもある。人が集まらないものを再びやる意味はない。さきほどのフォーラムはよい事例である。
- 委員： 公募実施状況からは、担当課が努力していることが伝わってくる内容である。努力したところについては、きちんと評価する必要がある。

会 長： 今日の見解を事務局でとりまとめ、次回答申案の素案として提示ほしい。

以上